2025年　中国軍の訓練総括

（出典：CCTV2026年春節聯歓晩会20260216）

２０２６．２．２７

国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

※　本書の無断転載、複写、複製を禁じます。
衛星画像は著作権の関係上Vantor社の画像使用は別途申請が必要、また（禁転載）とある画像は申請不可・転載禁止です。

項　　目

１　中国軍訓練の概要

２　2025年の特徴ある訓練
- 海軍
- 空軍
- 陸軍
- ロケット軍

３　まとめ

人民解放軍・武警の編成

中央軍事委員会
各部・室・委員会等

国務院
国防部

陸軍司令部
海軍司令部
空軍司令部
ﾛｹｯﾄ軍司令部

人民武装警察
内衛総隊
機動総隊
海警総隊

情報支援部隊
軍事宇宙部隊
ｻｲﾊﾞｰｽﾍﾟｰｽ部隊
聯勤保障部隊

東部戦区
71集団軍
72集団軍
73集団軍
海防旅団
戦区海軍
戦区空軍
戦区ロ軍

南部戦区
74集団軍
75集団軍
辺防旅団
海防旅団
戦区海軍
戦区空軍
戦区ロ軍

西部戦区
76集団軍
77集団軍
新疆軍区
西蔵軍区
戦区空軍
戦区ロ軍

北部戦区
78集団軍
79集団軍
80集団軍
辺防旅団
海防旅団
戦区海軍
戦区空軍
戦区ロ軍

中部戦区
81集団軍
82集団軍
83集団軍
戦区空軍
戦区ロ軍

—：作戦指揮
……：部隊建設
═：指導・調整

（組織図資料源：公刊資料から筆者が作成）

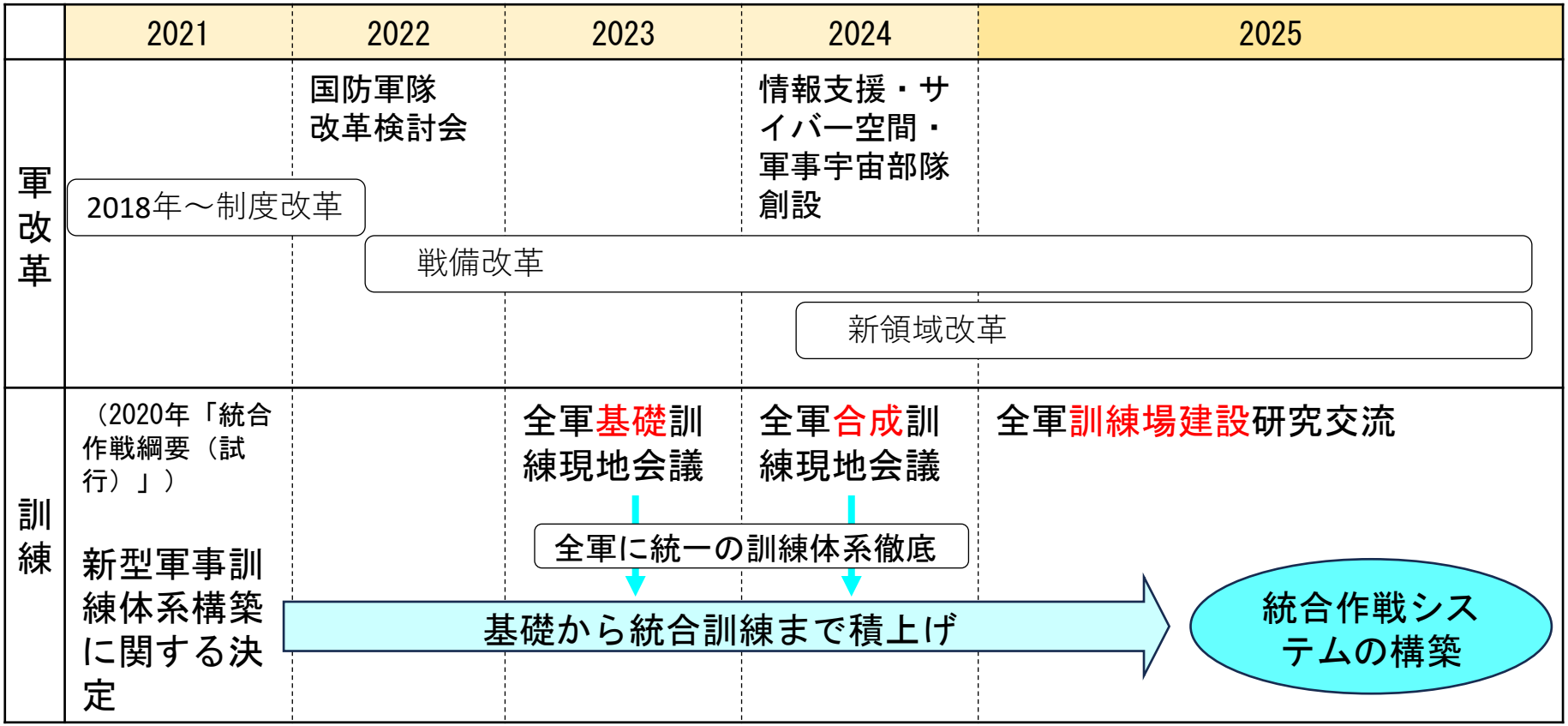
訓練体系：中期訓練サイクル・第 14 次五カ年計画

『第 14 次五カ年計画』の国防関連目標（抜粋）

機械化・情報化・知能化の融合的発展を加速、訓練・戦争準備を全面的に強化

○ 戦略的能力及び新領域・新質戦闘力を拡大し、ハイレベルな戦略的抑止と統合作戦システムを構築

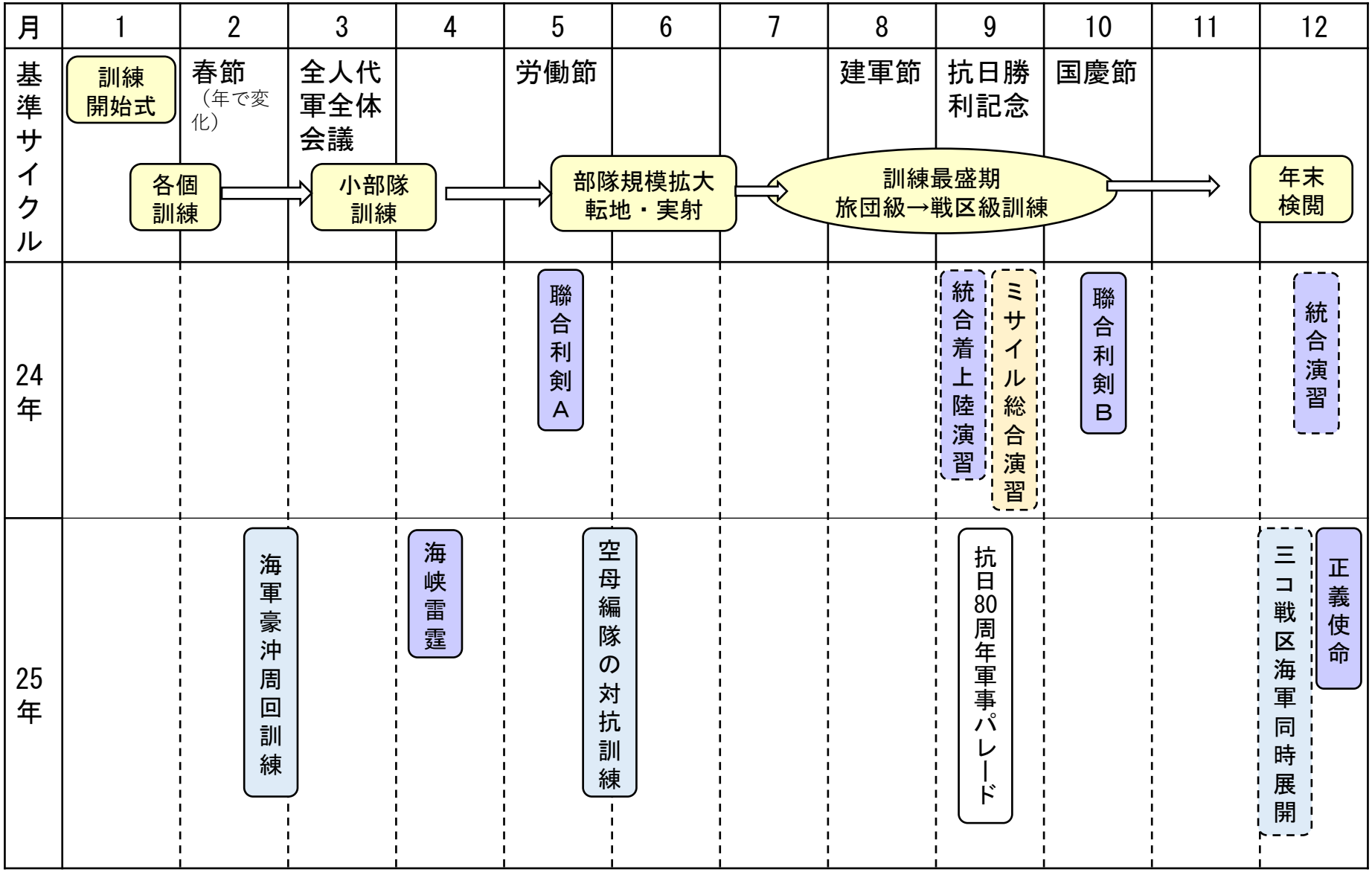
○ 海洋、宇宙、サイバー空間、バイオ、新エネルギー、人工知能、量子科学技術等の分野における軍民統一発展を強化



2025年は五カ年計画総仕上げの年、訓練では統合作戦を重視し訓練・検証

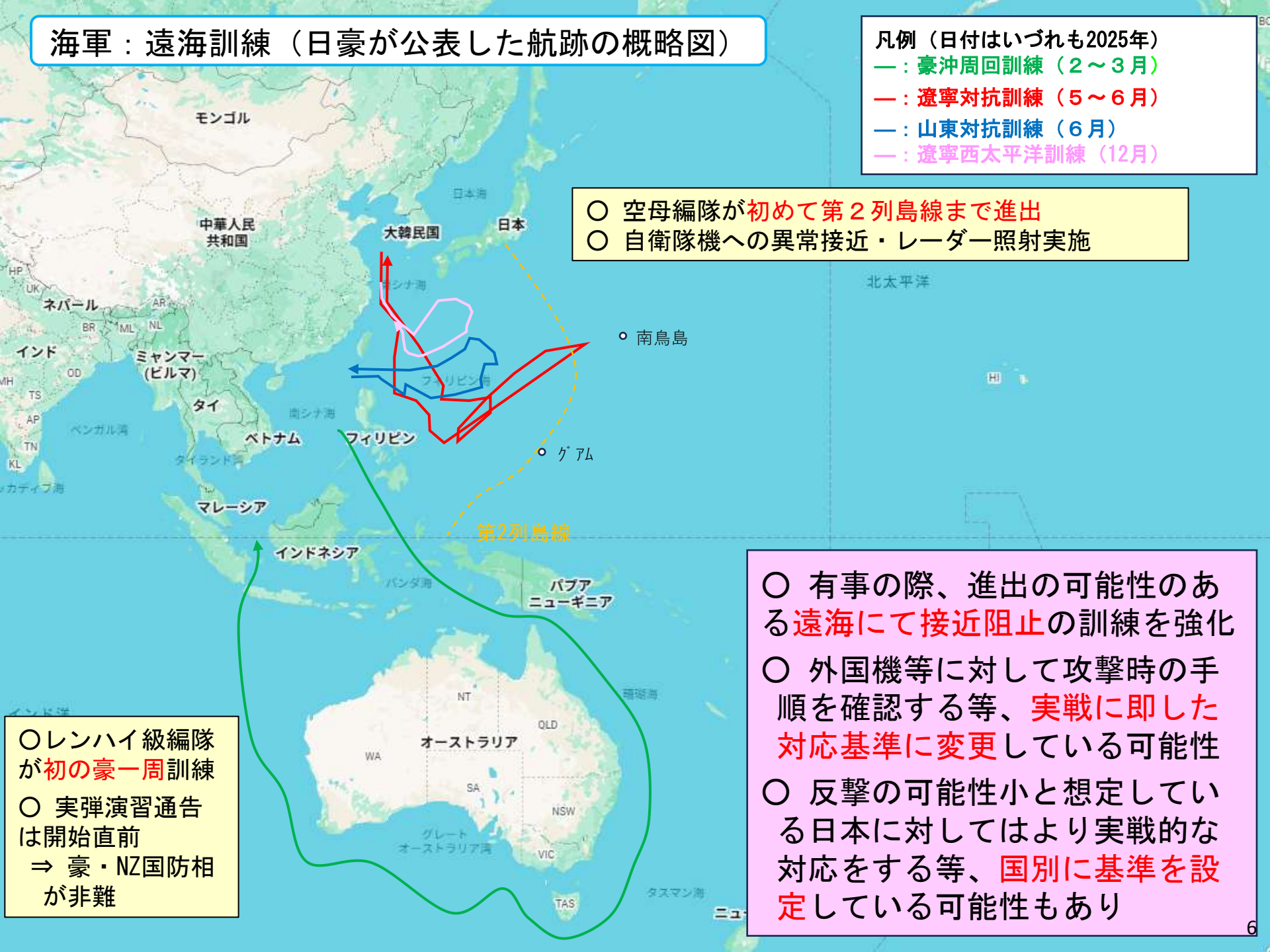
訓練体系②：年間訓練サイクル（2024～25年）

：東部戦区統合演習
：海軍演習（艦艇整備により訓練サイクル調整）
：中国側の関連報道なし



パレード同時期となった最盛期の統合着上陸演習未確認、海軍の合同演習活発化

海軍：遠海訓練（日豪が公表した航跡の概略図）



海軍：３コ戦区海軍の展開

注：日付はいづれも2025年

（資料源：統合幕僚監部、豪報道取り纏め）

関連報道

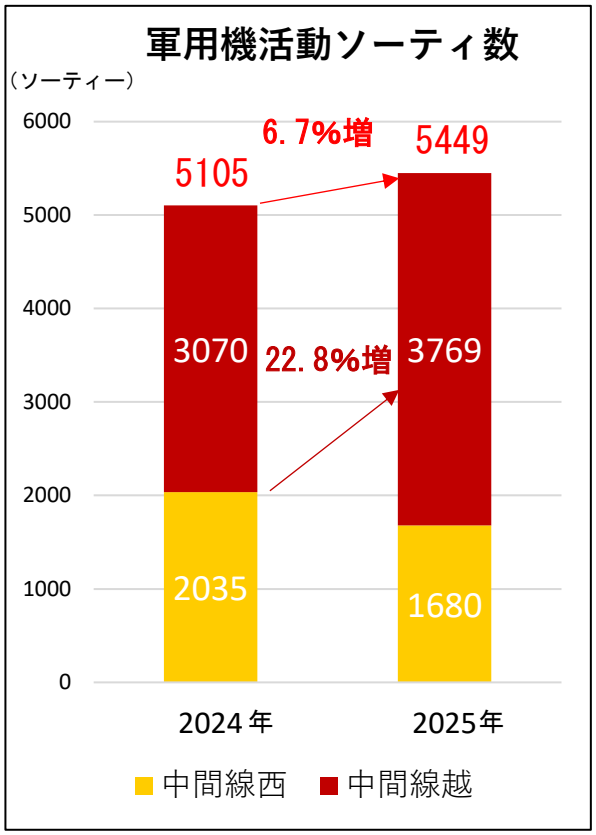
○ 12/3、海軍艦艇4コ編隊が西太平洋周辺海域で活動
（台湾国家安全局長談話　CNA20251205）

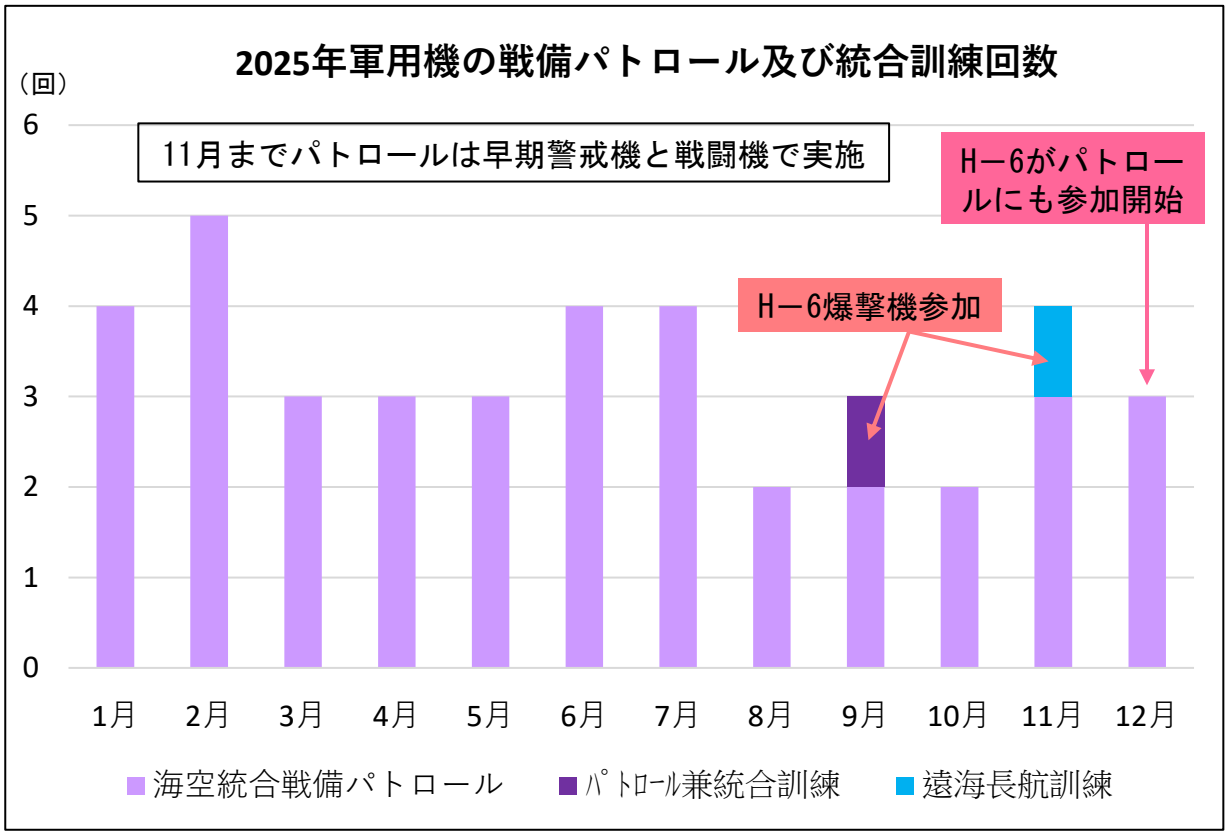
○ 12/4、海軍・海警90隻以上が黄海～東シナ海～南シナ海と太平洋で活動
（ロイター報道　20251204）

○ 12月初旬に２コ空母群を含む３コ戦区海軍の編隊が展開し活動

○ 北部戦区が第1列島線以東で、南部戦区が南シナ海以南で２コ戦区海軍が連携し、接近阻止を演練した可能性

空軍：軍用機の台湾周辺での活動





（資料源：中華民国国防部から筆者作成）

○ 台湾周辺での活動機数、特に中間線を越え、台湾に接近した活動を増加させ、訓練と実戦の境界の曖昧化

○ 2025年12月から、訓練時のみの参加であったH-6爆撃機がパトロールにも参加、パトロールからの台湾奇襲攻撃や第1列島線以東への攻撃が可能な態勢に変化

空軍：戦闘爆撃機の空中給油後の爆撃訓練

2025年9月に報道された訓練

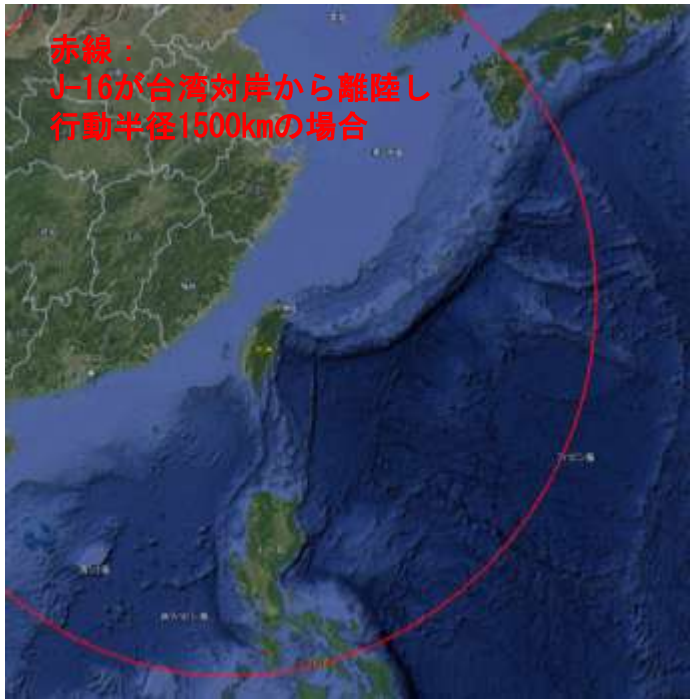
空軍J-16戦闘爆撃機が空中給油後の対地爆撃訓練を実施

YU-20から空中給油を受けるJ-16

対地ミサイルを発射するJ-16

標的の装甲車

（出典共に：軍事報道20250912）



○ J-16の行動半径から台湾への対地攻撃は空中給油を行う必要はなく、標的も装甲車であることから、日本・フィリピンに展開する米軍中距離ミサイルシステム等への攻撃をアピール

○ より遠方に進出し、台湾有事の際の日比の米軍協力を牽制し、台湾への支援阻止を演練

空軍：南部戦区空軍の長距離展開総合訓練

2025年10月に報道された訓練

○ 南部戦区空軍某分隊が車両数十両を「鉄道＋道路＋水路」で輸送する総合演習
○ 5日間で3000Kmの長距離を機動し、任務地域に到着

基地から鉄道で港湾まで移動

民間船に車両搭載

目的地の港湾で卸下

○ 南部戦区は台湾侵攻の副担任戦区であり、民間船を使用した機動訓練は確認されているが、陸軍が主であったものが空軍にも拡大
○ 海上機動を含めると3000km先の想定上の目的地は台湾又は3000m級滑走路×３を有する南シナ海人口島の可能性
  ◇ 台湾：海岸堡奪取以降の防空や空港の接収
  ◇ 人工島：有事の際、南シナ海での対潜戦・接近阻止のため前方展開する作戦機の支援

陸軍：北部戦区部隊の陸海輸送訓練

2025年9月に報道された訓練

先頃北部戦区の輸送調整センターが陸軍重型合成旅団と陸海輸送訓練を実施

駐屯地から港湾まで鉄道移動

民間船に乗船

民間船に乗船

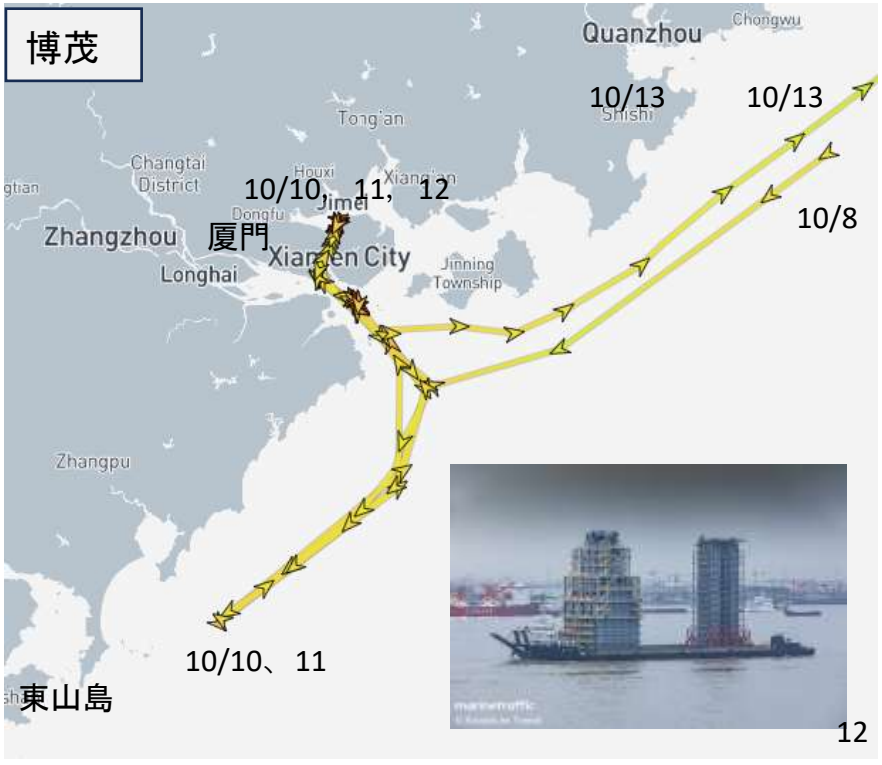
海上輸送

（出典全て：CCTV「軍事報道」202509121）

使用された船舶の形状（デッキカーゴ船）や部隊の装備から、北部戦区部隊が台湾侵攻時、海岸堡設定以降の後続部隊として機動する訓練を実施している可能性

陸軍：デッキカーゴ船による着上陸訓練①

注：日付はいづれも2025年　　（資料源全て：MrineTraffic）



○ 2025年10月に民間船舶（ﾃﾞｯｷｶｰｺﾞ）３隻が東山島着上陸訓練場付近で活動

○ 南下・北上の途中でそれぞれ厦門に寄港しており、物品の積載・卸下を行った可能性

陸軍：デッキカーゴ船による着上陸訓練②

2025年10月12日
厦門港

（衛星画像については著作権の関係上未掲載）

港及び長雄・奥凱龍66・博茂の船上にトラックを主に軍用車×106確認
⇒ デッキカーゴ船を使用し、補給のための後方支援車両や後続部隊の渡海訓練の可能性

海軍：桟橋船の配備

注：日付はいづれも2025年

6-7月
桟橋船接続試験
10/13、11/15、11/22
接続訓練確認

南田島

浙江

8/2～9/30
11/28～
桟橋船3隻が停泊

玉環島海軍基地

各船は東工401・東工402・東工403と命名

福建

臺北

広西壮族 自治区

広东

台湾

桟橋船建造

龍穴島造船所

深圳市

東海島

南三

3月
2か所で桟橋船接続試験
（RORO船2隻参加）

桟橋船を東部戦区玉環島海軍基地に配備
⇒ 水陸両用車以外の軍用車が上陸可能
迅速な後続部隊の上陸により継戦能力強化

ロケット軍：正義使命-2025

2025年12月の統合演習「正義使命」

○ TEL（輸送起立発射機）が各地に展開、敵艦艇・重要軍事目標等に模擬波状攻撃
○ 台湾へ指向するSRBMは統合演習で度々確認されるも、DF-17・26を初確認

DF-15B（SRBM）
射程900km

（出典：軍事報道20251230）

DF-16（SRBM）
射程1000km

（出典：軍事報道20251229）

DF-17（MRBM）
射程2000km

（出典：新聞直播間20251229）

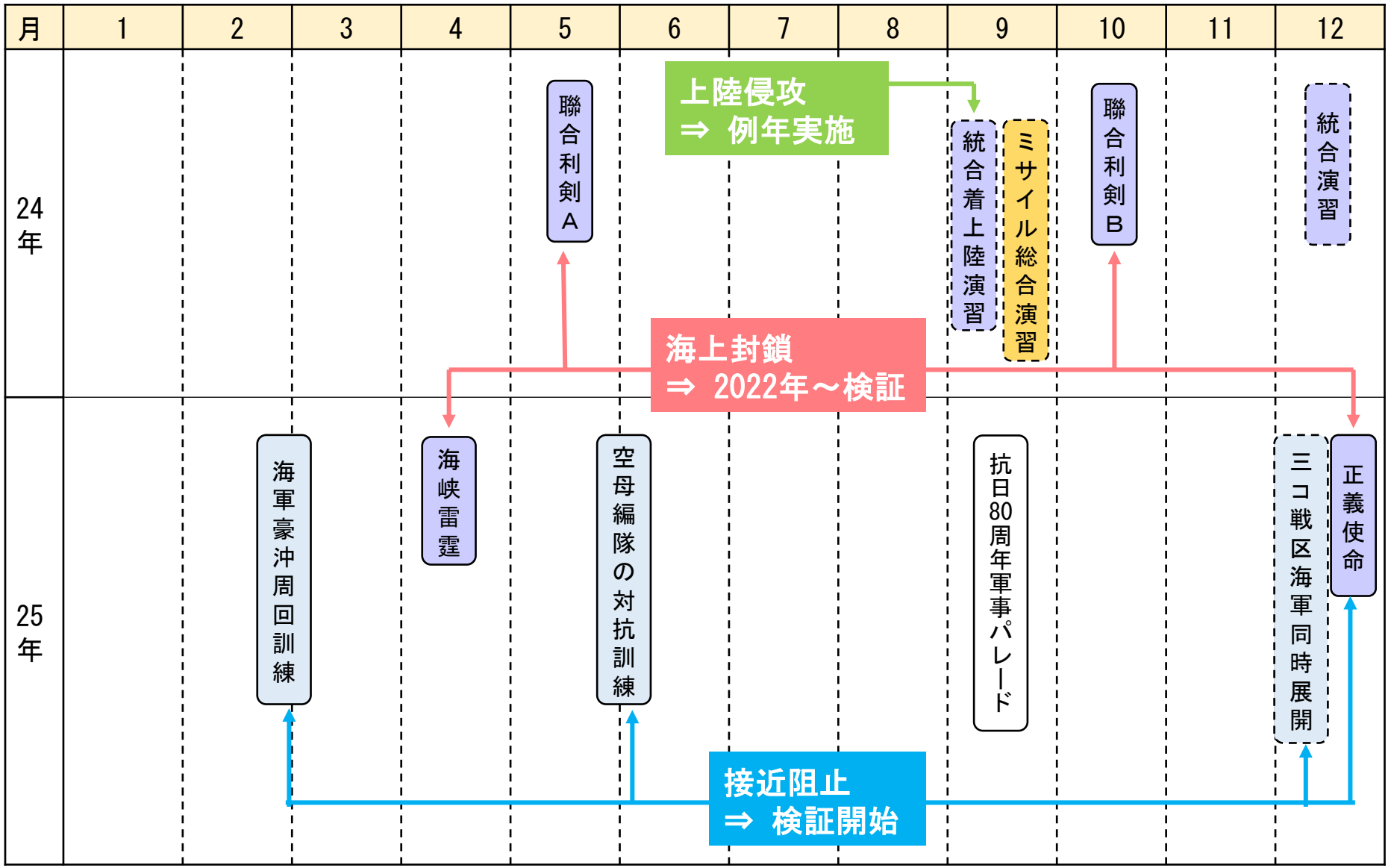
DF-26（IRBM）
射程3000～4000km

（出典：2枚とも軍事報道20251230）

第1列島線以東での対艦能力を有するMRBM・IRBMが、接近阻止を演練した可能性

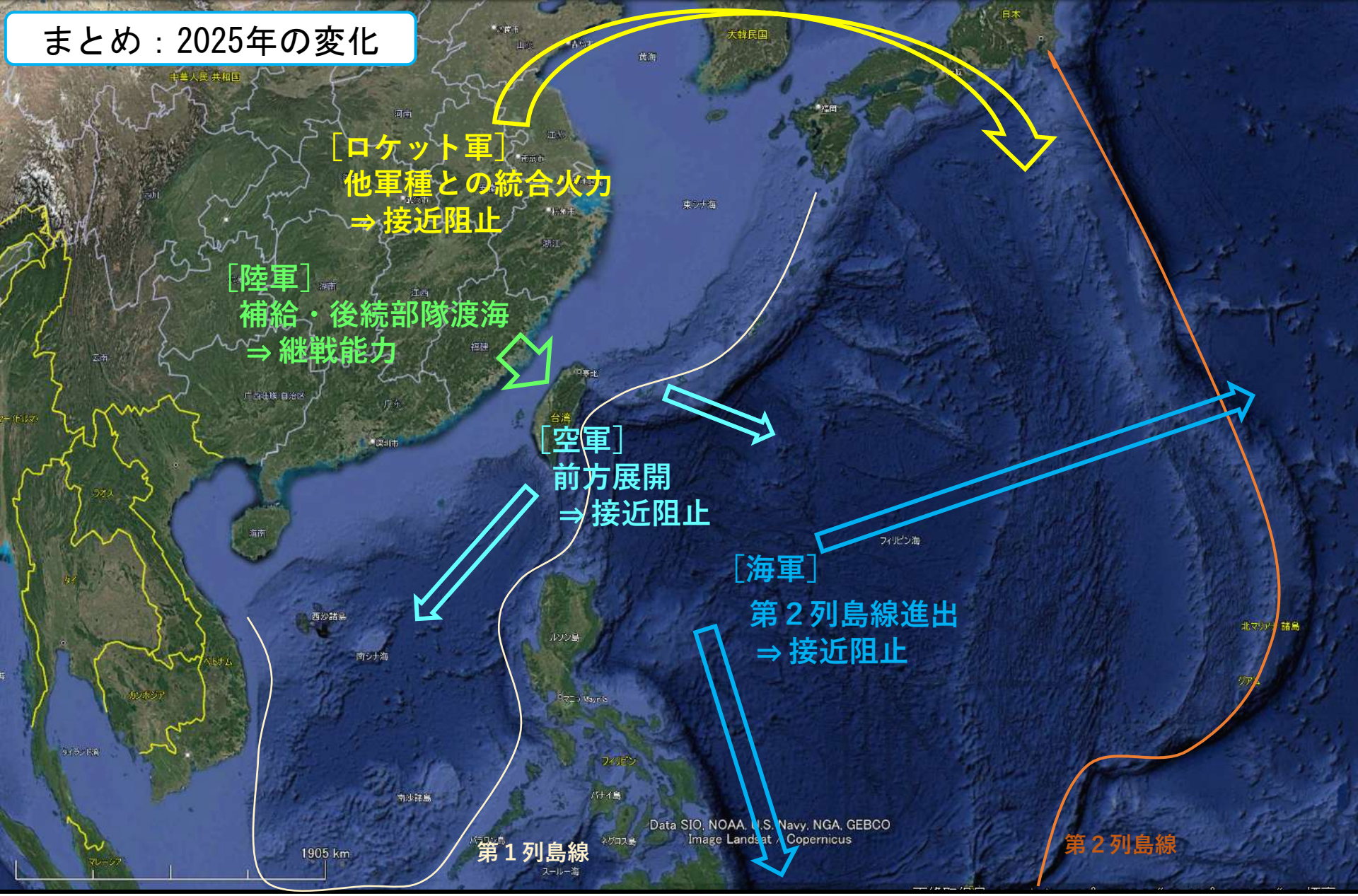
統合演習（2024～25年）

：東部戦区統合演習
：海軍演習
：中国側の関連報道なし



2025年は、上陸侵攻・海上封鎖訓練を深化させつつ、接近阻止の検証に重点移行

まとめ：2025年の変化



○ 訓練の地理的（第2列島線）・時間的（継戦）範囲を拡大、様々な作戦様相に対応可能

○ 今後は南部（台湾副）・中部（予備）・北部（接近阻止）各戦区等参加の統合演習に注目